

**本園の教育  
目標**

幼稚園に係るすべての人が成長と喜びを感じることを出来る幼稚園にすることを目標としている。豊かな自然の中での幼児の遊びを通しての教育を目標としている。幼児が自分で考え選択し行動できる教育を目標としている。

本年度の重点的に取り組む目標

- ① 本園の教育目標「共生」を基にした保育計画に基づいた保育を実施する
- ② 自園給食、食育に対する取り組みについて
- ③ さくら・さくらんぼリズムについて
- ④ 自然保育について

**評価項目**

**取組状況と結果**

本園の教育目標を取り入れた保育計画を立てて保育を行うことができたか

今年度から認定こども園に移行したが、しらぎく保育園の職員を移動することで、そのまま保育部の1,2歳児を行うことができた。保育部も本園の保育の考え方を取り入れて生活と遊びを主体とした保育を行う事が出来たと思う。2,3号認定児が増えたことで、システムの変更、発想の転換で当初は混乱もあったが、一つずつ改善を重ね、落ち着いてきている。

A  
B  
C  
D

自園給食、食育に対する取り組みについて

例年の年長組のお米作りは、粃蒔き、田植えから稲刈り、脱穀して精米したお米を給食で出し、おにぎりにして食べるという食育ができた。その他園内の畑で夏野菜をきゅうり、茄子、ピーマン、ズッキーニを植えて食べきれない程豊作だった。秋以降は小松菜、カブ、白菜、春菊を苗植えから収穫まで行い、給食や調理実習（小松菜のおひたし）で子ども達が味わうことができ、畑をフル稼働して食育活動を行うことが出来た。

A  
B  
C  
D

さくら・さくらんぼリズムについて

熱中症警戒アラートの発令が続く等、外で思いっきり遊ぶことが難しい状況にある中、リズムあそびで、季節や天候に左右されず年間を通して身体を鍛えることができた。ピアノをよく聴き自分で判断して動くことで、考える力・集中力が身についてきている。参観に取り入れたことで、家庭でも親子で一緒に遊んだり、会話したりとコミュニケーションの時間に繋がったと思う。

A  
B  
C  
D

自然保育について

年少組以上で、自然環境教育としてムッレ教室を行った。身近な草花や虫や、はっぱが土に戻る様子を観察する等の活動を行った。年長組では葉緑素（クロロフィル）の存在を知って、自然の循環への理解を深めることができたと思う。身近な自然に対する子ども達の関わり方にも変化が感じられた。上西郷川への川遊びを今年は年中組、年長組とも2回行き、地元の自然の中で、生き物を観察することが出来た。又どろんこ広場や花壇で育てる自然環境は今後も充実させていきたいと思う。

A  
B  
C  
D

## 本園の総合的な評価結果と今後の課題

重点的に取り組む評価項目については職員会議などを通してそれぞれ自己点検・自己評価を行なった。

●認定こどもへの移行にともない、前半は教室の配置換えやシステムの更新等、様々な場面で変更に対応していく必要があったが、幼稚園部と保育園部での打ち合わせを通して、運営のやり方や棲み分け方が確立されてきた。一方で子ども達は、猛暑の影響もあったが、外遊びを中心とした生活を楽しみ、一人ひとりが園内の環境を身近に感じながら毎日を過ごし、のびのびと成長していく姿を見せてくれたと思う。草花やどんぐり、葉っぱ、落ち葉といった自然環境も、その時期に沢山の恵みを与えてくれて、思いきり遊びに活用することができたと思う。先生達も季節や環境の変化を意識し、子ども達の遊びを引き出す援助を行うことができた。素朴な遊びの一つ一つに、子ども達の創造力や社会性を引き出し、成長を促す力があると考えている。

●今年には園内の畑をフル稼働させて、食育活動を例年になく沢山出来た年であった。

今後も食育活動は年間を通じて沢山行い、身近な自然と触れあい、五感で味わうことで子ども達の自然経験を豊かにしていきたい。栽培するものも、子ども達が育ててみたいものや、今迄栽培したことのない新しいものにもチャレンジしてみたい。

園芸療法というものがあり、まだ研究は少ないものの、園芸活動に参加した3-5歳の幼児の行動観察により、幼児たちの社交的スキル、自己肯定感、集中力が向上したことが報告されているなど子ども達の成長にもつながる重要な活動として今後も行いたい。

●年長は7月に例年の夏の催しを行った。今年は「みらくる☆わーど」というテーマで、各クラスで考えた、以前より自由な発想の製作物を展示し、お店屋さんごっこ形式で楽しんだ。魚釣りをして釣った魚をお寿司にして持ち帰ったり、宇宙のブラックホールからホワイトホールに繋がるトンネルは、何でも吸い込むホールから何でも吐き出すホールが繋がっているなど子ども達の面白い発想を汲み上げて、具体化することができるようになってきたと思う。今後は開催時期を例年の7月か、色々な経験をした後の秋頃が良いのか、今までの考えに縛られず根本的なところから考え直して検討したい。

●来年度から未満児クラスがもう一つ増え認可定員通りでの運営になる。0歳児も初めて預かることになるので職員の採用・配置など体制を整えていきたい。年長組は来年度から4クラスから3クラスになる。学年規模が大きすぎて何をするにも日数がかかったりした部分は改善されると思う。今後もより子ども達の遊びと生活を充実させることで、成長を支えていける保育を行っていきたい。こども主体の保育も職員は色々試行錯誤しながらも、いい実践も増えてきた。今後もより質の高い保育を目指していきたい。

今年度は以上の通り自己評価します。

しらぎく幼稚園  
園長 塩川大輔